

安全への取組

放射性物質による影響を防止するには、「距離を保つこと又は遮へい材を置くこと」、「拡散させないこと」、「モニタリングの実施」の対策が必要になります。

このような考えのもと、本施設では以下の対策を講じています。

設備配置の距離を保ち、遮へいしています。

- 乾燥処理に伴う放射線量を計算することで、放射線防護上必要となる距離を評価し、評価結果を踏まえて設備配置しています。
- 放射線防護上必要な遮へいがされているか監視しています。

放射性物質を閉じ込めています（拡散させない）。

- 処理する汚泥を造粒する（粒状にする）ことで、飛散を防止しています。
- 加えて、乾燥汚泥はポリエチレン製の袋に入れ、窒素封入した上で袋を熱溶着し、さらにドラム缶に詰めて密封しています。
- 汚泥と直接的に接触する各機器は密閉構造としています。
- 高性能の排ガス処理装置（バグフィルター）を設置しています。設備内の循環空気は、バグフィルターを2回通って屋外に排気されます。
- 主要な設備は負圧で管理された建屋内に設置し、万一、放射性物質が漏えいしても外部への放出を防ぎます。

放射性物質の漏えいの有無を常時監視しています。

- 敷地境界にモニタリングポストを6箇所設置して空間放射線量率を常時測定しています。
- 設備から放出される排気、排水および建屋排気は、放射能濃度を常時測定・監視しています。



負圧建屋



バグフィルター



ドラム缶封入装置

異常発生にも対応できる万全の対応体制を構築しています。

- 放射性物質の拡散が起きないように、異常発生を想定した施設状況の分析を事前に実施し、多重・多様の検知手段や安全対策を施しています。万一、異常が発生した場合は、警報で知らせたり、自動的に設備停止するなどの設計が施されています。（ハード対策）
- 異常発生を想定した施設状況の分析は、緊急時対応マニュアルに反映させています。定期的な訓練を通して、緊急時対応の確認、課題の抽出、継続的な改善を進めています。（ソフト対策）

周辺環境に配慮した騒音・臭気対策を実施しています。

- 建屋からの臭気は、活性炭脱臭処理を実施しています。
- 騒音を低減させるため、音源となるファンを防音ボックス内に設置しています。

施設運転時における定期的な安全確認を実施しています。

- 定期的な安全パトロールを実施し、施設の管理状況を確認しています。必要に応じて迅速な改善対応を行っています。
- 定期点検回数を多く設定することで、設備状況を綿密に把握し、予防保全に万全を期しています。



モニタリングポスト



防音ボックス



活性炭脱臭装置